

第四期中期目標に対する 令和4年度の達成状況

人と自然の博物館では、平成14年度から「中期目標」と「措置」を設けています。中期目標はいわば博物館の行動の指針となる大項目であり、それぞれに達成を目指すべき目標値（指標）が設定しています。さらに中期目標各項目の下位項目として「措置」を設定し、博物館活動の活性化に資する取組を数値で把握するよう努めています。

<これまでの中期目標>

第1期中期目標 平成14年度（2002年度）～18年度（2006年度）

第2期中期目標 平成19年度（2007年度）～24年度（2012年度）

＊開館20周年にあたって策定した「ひととはく将来ビジョン」
を反映させるため期間を1年延長

第3期中期目標 平成25年度（2013年度）～29年度（2017年度）

第4期中期目標 平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度）

2022年度は、第四期中期目標の最終年度です。次ページ以降に、各目標とそれぞれの達成度について評価し、2023年度への取り組みを記します。

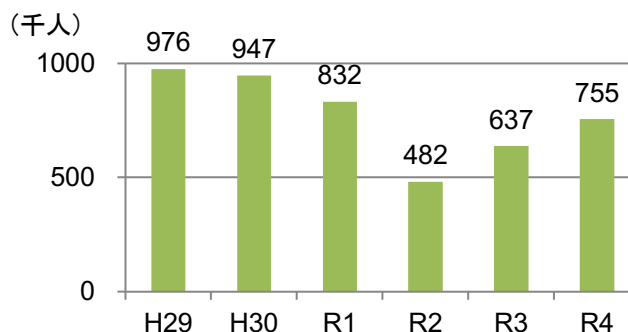
1. 生涯学習支援

「演示」手法を用いることで、あらゆる世代の知的好奇心を刺激し、多くの県民に「生涯を通じて学び続ける場」を提供します。

1 総利用者数

本館利用者数・連携施設利用者数・主催アウトリーチ事業・共催・協力事業の参加者数

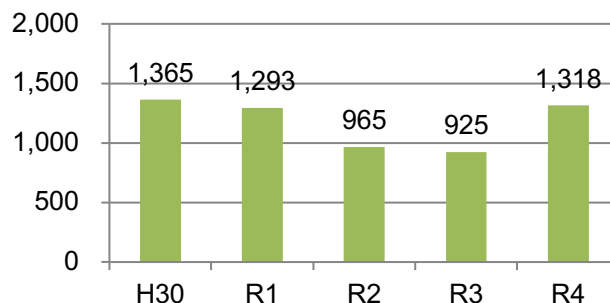
中期目標：800千人/年
令和4年度：755千人(94%)



2 生涯学習プログラム

館主催プログラム（一般セミナー+オープンセミナー+特注セミナー）の実施件数

中期目標：1,550件/年
令和4年度：1,318件(85%)



令和4年度の達成状況と自己評価

総利用者数は755千人、前年度比118.5%であった。このうち本館入館者は180千人、前年度比151.8%、約61千人の増加になった。令和4年度は、制限のない状況でスタートしたこともあり、コロナ禍以前の状況に戻ってきた。また、館主催プログラム数は、1,318件、前年度比142.5%、受講者の満足度も97%と高水準を維持している。

令和5年度への取組に向けて

今年度においても、学校団体等の受け入れ時に、学校等の要望に合わせた学習プログラムを提案し、特注セミナーの利用率をさらに高めていきたい。また、来館者や地域の方々のダイバーシティに配慮した、インクルーシブな学習支援サービスも充実させていきたい。引き続き、標本・資料や身近な自然の活用した学習プログラム・学習教材の開発・実践とその利用促進に向けて、博物館の魅力や活用について効果的な情報発信に努めていきたい。

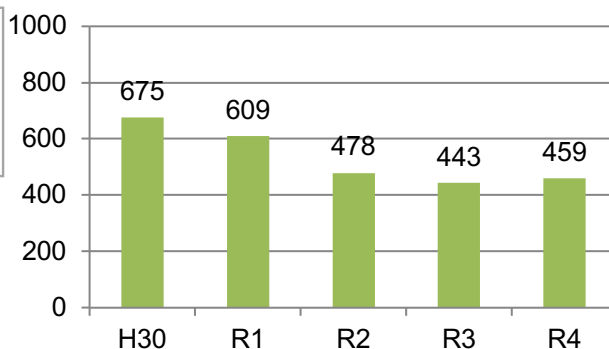
2. 人材育成と活躍の場の整備

「担い手」の成長を支援し、活躍する「舞台」を提供します。

1 担い手の登録者数

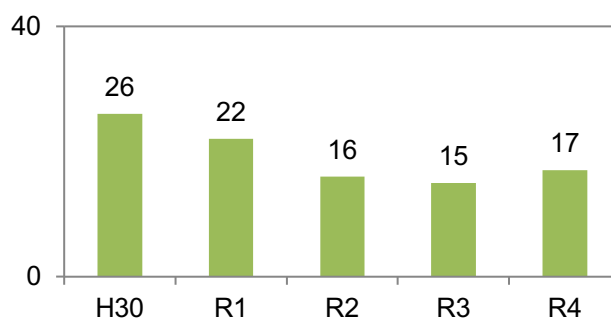
地域研究員、連携活動グループ、発掘・剖出ボランティアの登録者数

中期目標：650人
令和4年度：459人 (71%)



2 連携活動グループ登録団体数

中期目標：40団体 (R4まで)
令和4年度：17団体 (43%)



令和4年度の達成状況と自己評価

担い手の登録者数、連携活動グループ登録団体数共に、平成30年から減少傾向にあります。登録者、登録グループは、セミナー、観察会等の実施、共生のひろばでの発表など、ひとはくを活用した充実した内容を展開しています。現在の活動を活性化させるためにも、新たな仲間づくりは重要といえます。長く運用してきた登録システムやひとはく研究員との連携内容などについての課題、新たにひとはくと連携したいと考える人々をどのように発掘し、交流を深めるかといった方策などを検討したいと考えます。

令和5年度の実施に向けて

新たなグループや個人の発掘には、更なるアウトリーチや連携事業の展開が必要です。また研究員個人の他団体や個人との関係を可視化し、担い手につなげることが可能かについても検討します。

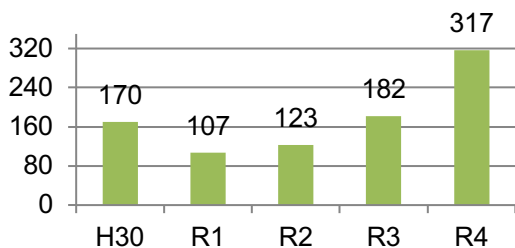
3. 連携・アウトリーチ活動

多様な主体と連携し、全県的に事業を展開します。

1 アウトリーチ事業

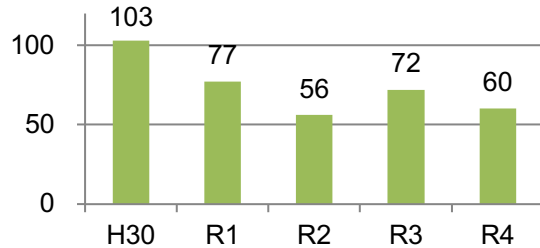
1-1. 主催アウトリーチ事業実施件数

中期目標：80件/年
令和4年度：317件 (396%)



1-2. ゆめはく稼働日数

中期目標：50日/年
令和4年度：60日 (120%)

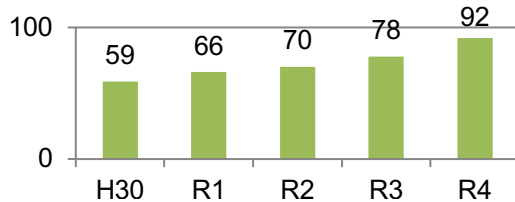


1 アウトリーチ事業

1-3. 地域展開度

県内の旧市町区数に対する主催アウトリーチ事業実施市町区数の比率

中期目標：100% (R4まで)
令和4年度：92%

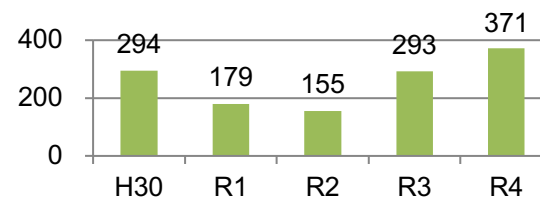


2 多様な主体との連携事業

2-1. 連携事業実施件数

主催アウトリーチ、主催・共催事業、協力事業、館内連携事業件数の合計

中期目標：200件/年
令和4年度：371件 (186%)



令和4年度の達成状況と自己評価

アウトリーチ事業については、実施件数、ゆめはく稼働日数ともに目標を大きく上回っています。コロナ禍が多少落ち着いたこともあり、キッズキャラバンや小学校キャラバンが順調に展開していることが大きな要因です。連携事業件数も目標を大きく上回ることができました。地域展開度は92%にまで到達しましたが、西播磨地域など、ひとはくから遠く活動が手薄な地域へのアプローチ方法を検討する必要があります。

令和5年度への取組に向けて

令和5年度もキッズキャラバン、小学校キャラバンを積極的に展開します。地域展開については、地域展開推進室を新たに設置しチームで取り組みます。

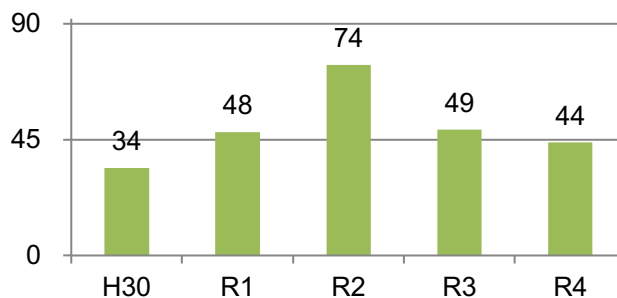
4-1. 研究活動

すべての活動の基礎となる研究を引き続き精力的に遂行し、成果を還元します。

1 学術論文・専門図書数

学会等の査読を経て掲載された学術論文と専門図書数

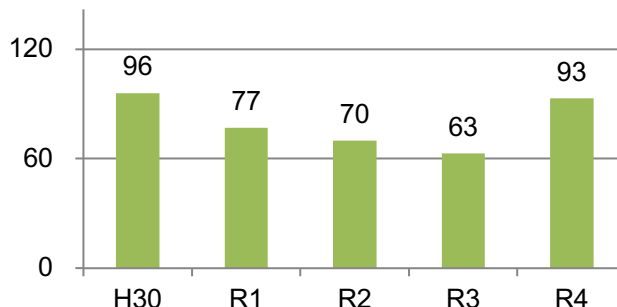
中期目標：45本/年
令和4年度：44本 (98%)



2 一般向け図書・その他著作数

一般向け図書、雑誌・新聞等の著作数

中期目標：60本/年
令和4年度：93本 (155%)



令和4年度の達成状況と自己評価

R3年から引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大によって調査活動が制限され、新たな研究論文数は少し減少傾向にあります。その中でも、今できる調査や既存資料を用いた研究を進め、目標値にほぼ近い研究論文・専門図書数を達成しています。一般向け図書等の数は、HP等の電子媒体での成果を含めて、様々な媒体を通じた執筆活動によって、目標値を大幅に超えることができました。

令和5年度の実施に向けて

様々な機関との共同研究や、学際的な研究が求められる傾向にあり、共著論文や共著書が増えています。一方で、多くの研究員が所属する研究型博物館として、独自の研究を推進することが今後も求められます。館内での研究交流や、県政課題の解決に向けた取り組みを通じて、ひとほらしい研究活動を推進・発信していきます。

目標と達成度

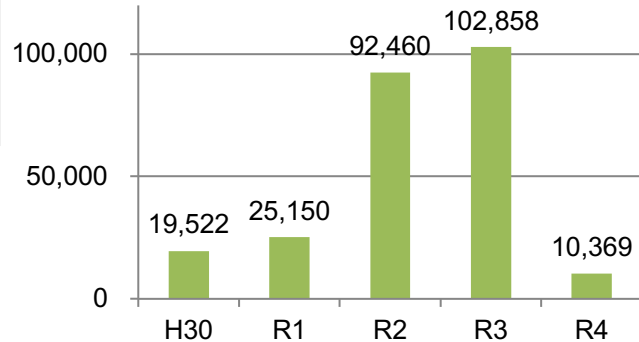
4-2. 資料

特色ある質の高い資料を収集・整理し、利活用を推進します。

1 資料の登録点数

「ひとはく資料データベース」への年間登録件数

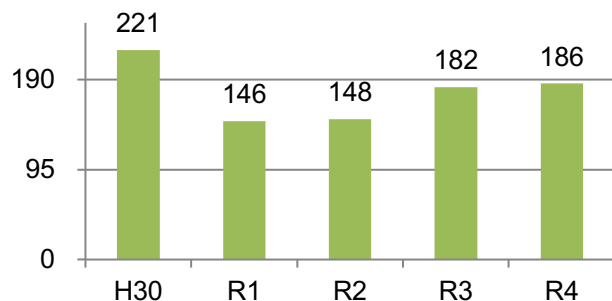
中期目標：10,000点/年
令和4年度：10,369点 (104%)



2 資料の利活用件数

研究活用件数、貸出件数、館内・館外展示件数、セミナー活用件数（H30新規項目）、マルチメディア等データ提供件数の合計

中期目標：95件/年
令和4年度：186件 (196%)



令和4年度の達成状況と自己評価

資料の登録点数、利活用件数、ともに目標を上回っています。10月には念願の新収蔵庫棟「コレクションナリウム」の供用が開始されました。これによって資料の収集、保管機能が強化され、自然・環境系コレクションのセンターとして、県民のみなさんや関係機関からのより一層の期待に応えられるようになりました。

令和5年度への取組に向けて

蓄積された標本等は、新たに「コレクションナリウム」での展示やワークショップで積極的に披露していくほか、デジタル・アーカイブ化にも取り組みオンラインでの公開も進めていきます。また、当館の開館から30年が経過し、兵庫県の自然・環境も大きく変化しています。収蔵機能の強化にあわせ、つぎの30年に向けての中長期的な資料収集計画の策定に着手します。

目標と達成度

4-3. シンクタンク活動

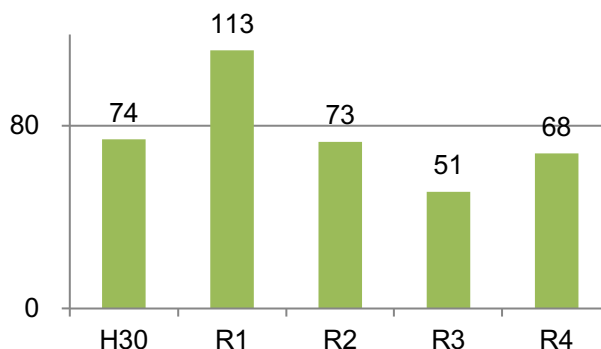
研究・
シンクタンク
推進室

専門性を活かして地域づくりをリードします。

1 県政課題関連論文・著作・研究発表数

県内を対象とした学術論文、著作および研究発表の件数の合計

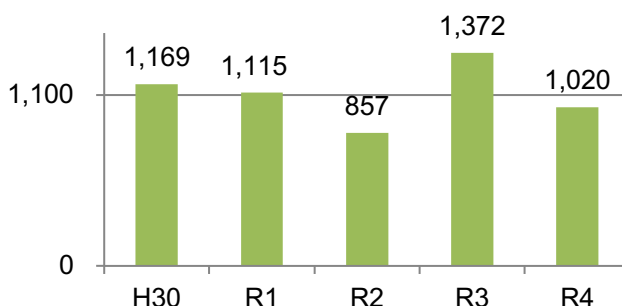
中期目標：80件/年
令和4年度：68本(85%)



2 県政・市町行政に対する貢献度

国・県・市町関連の委員会参画数および相談件数の合計

中期目標：1,100件/年
令和4年度：1,020件(93%)



令和4年度の達成状況と自己評価

県政課題関連論文等の件数は、目標値を下回る状況が続いています。新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きいですが、研究のグローバル化によってローカルな研究が減少していることも事実です。県政・市町行政に対する貢献度は目標値に近い結果となりましたが、こちらも研究員や研究部の偏りが多く、得意な分野を伸ばす傾向が結果にでていると思われます。

令和5年度への取組に向けて

研究テーマは県内に限らずとも、研究で得られた知見は県政課題の解決に役立てられる可能性があります。研究員が自分で不得意分野を作らず、要請に応じて行政や地域の課題解決に応じるべく、社会と学術のマッチングを図ります。

目標と達成度

5. マーケティング・マネジメント

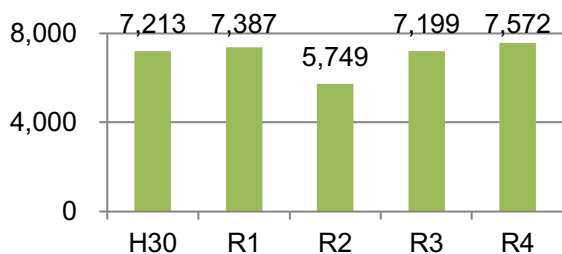
変化する社会状況に対応した効率的で健全な運営を行い、多くの県民に認知・利用される博物館を創出します。

1 外部資金による事業推進

1-1. 外部資金獲得金額

研究助成金、受託研究費、事業活動助成金の合計金額

中期目標：4,000万円
令和4年度：7,572万円(189%)

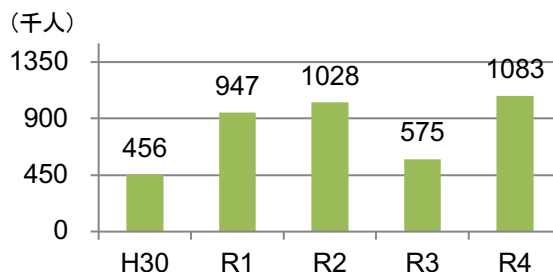


2 情報発信

2-1. HP アクセス件数

当館ホームページへのアクセス件数

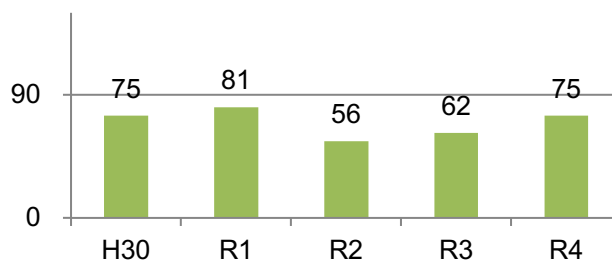
中期目標：450千件/年
令和4年度：1,083千件(241%)



3 中期目標の達成度

当該指標以外の総指標数16に対する「達成率90%以上の指標数」の比率

中期目標：90%
令和4年度：75%(83%)

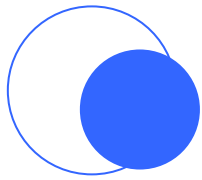


令和4年度の達成状況と自己評価

外部資金の獲得金額と当館ホームページへのアクセス件数はいずれも目標値を大きく上回りました。一方で、総指標数16に対する「達成率90%以上の指標数」の比率は75%と前年度より上昇したものの、目標値である90%には達しませんでした。これは新型コロナウイルス感染症の蔓延による種々の制限がまだ影響していたと考えられます。

令和5年度への取組に向けて

開館31年目となる令和5年度は、新たな中期目標のもとにより充実した博物館活動を進めていく予定です。とくに、地域連携やダイバーシティ&インクルージョンについては新たな部署を設置し、社会のニーズを適切に把握しながら、それらのニーズに応えるための独自かつ先端的な取り組みを進めていきます。



コレクションナリウム事業

■ コレクションナリウム準備室 令和4年度の主な事業

(1) 新収蔵庫棟（コレクションナリウム）オープンに向けた各種整備

令和4年度は10月のオープンにむけて、展示ギャラリー・および建物外側のうすっぺらい展示の展示制作、ワークルールの什器や備品搬入などの整備作業を行った。併せて2階収蔵庫のアンモニア濃度を毎月計測し、定期的にベントを開放してアンモニアの排出作業を行った。11月に文化庁規定のアンモニア濃度を下回ったため、令和5年1月末に多くの館職員の助けを得て植物標本の引っ越しを行った。植物標本の搬入をもってコレクションナリウム整備作業が一通り完了し、準備室の役目を終えた。

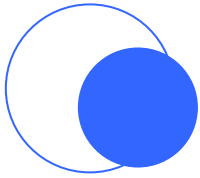
また並行して、

- ・フラワータウン住民向けコレクションナリウム内覧会を実施した。
- ・館員・フロアスタッフ向けに、コレクションナリウム利用についての説明会を開催した。
- ・KPI 指標となるコレクションナリウム開館前と開館後の来館者の満足度変化を測るため、アンケート調査を実施した。
- ・コレクションナリウムを使用した今後の事業計画について、関連課室と共に検討した。
- ・三田市やフラワータウン各事業者と連携し、コレクションナリウムと周辺空間を利用したフラワータウン活性化について議論を行った。



新収蔵庫棟 コレクションナリウム

(コレクションナリウム準備室 高野温子・赤澤宏樹・三橋弘宗・高田知紀・布野隆之・福本優・山崎健史)



タスクフォース事業

従来の組織群とは別に、短期の課題を達成するために平成 20 年度からタスクフォース制度を導入しました。各タスクフォースはリーダー・サブリーダー・メンバーで構成し、課題の達成状況に応じて年度途中でも人員は変更可能です。また新たなタスクフォースを発足できるようにしています。

■ 恐竜タスクフォース 令和 4 年度の主な事業

(1) 篠山層群化石を活用した地域活性化を目指す人材育成システムの構築

篠山層群から産出する化石の調査・研究をさらに推進し、その成果を活用するため、人材育成（発掘・剖出・普及教育）の体制を強化する。今後 10 年間で持続可能な人材育成循環システムの構築を目指す。最終的には、ボランティア人材の登録 100 名体制を目標に、将来的に持続可能な人材育成システムの基盤をつくる。その基盤づくりに向けて、以下の事業を実施した。

1-1. 人材育成

発掘（石割）ボランティア：市民参加型発掘を実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。新規登録人数は 22 名。総登録者数は 142 名（R.5.3 月現在）。これまでに行われた調査の参加者は延べ 1310 名。

剖出ボランティアの育成：恐竜ラボで受け入れ、剖出に携わるボランティア人材を育成している。新規登録人数は 10 名。総登録人数は 38 名（R.5.3 月現在）。これまでの参加者は延べ 1057 名 2905 時間。

普及教育ボランティア：「ひとはく化石専門指導員」の認定制度を設け、普及教育に携わる人材の育成に取り組んでいる。R4 年度の新規登録者数は無く、総登録者数は 19 名。

1-2. 市民参加型発掘調査

川代トンネル岩砕を対象とした市民参加型発掘を 5~6 月に県立丹波並木道中央公園、10 月にひとはくで各 2 週間程度実施し、新たな化石資料の発見、また調査に参画する人材の育成に努めた。調査日数は計 24 日間。参加登録者は 22 名。参加人延べ数は 106 名。

(2) 研究

丹波竜に代表される篠山層群産の脊椎動物化石の研究を中心に、国内外の大学・研究機関等と協働して推進し、将来の研究拠点形成を視野に、研究実績の蓄積や地域づくり活動支援の強化を進める。

- ・関連論文 1 件（人と自然）
- ・研究発表 6 件（Society of Vertebrate Paleontology、日本古生物学会）

(3) 普及事業

恐竜化石等の調査や研究内容をセミナーの開催や展示等を通じて広く公開する。

3-1. 展示

- ・企画展「ひょうごの恐竜展～タンパティタニスとヤマトサウルス」(R4 7/15- R5 1/9)
- ・臨時展示「篠山層群から発見された小さなモンスター」(R3 12/11- R4 3/27)
- ・その他展示 3 件（協力：丹波市立丹波竜化石工房 1、あわじグリーン館 1、国営明石海峡公園 1）

3-2. 普及教育

- ・特別講演会「ひょうごの恐竜」
- ・篠山層群産の恐竜・脊椎動物化石に関連する各種セミナーや発掘体験会等を実施。

(4) 地域支援

平成 22 年度に締結した「篠山層群における恐竜・ほ乳類化石等に関する基本協定」に基づき、地域支援を展開している。平成 27 年度から丹波県民局が主導する「丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム

ム」事業が始動し、その活動を支援している。

4-1. 丹波竜化石工房特別展「恐竜の復元模型展」の開催（協力）

4-2. 各種事業への参画

- ・丹波地域恐竜化石フィールドミュージアム推進協議会 2回（R4 7/21, R5 3/14）
- ・丹波篠山市との宮田における化石調査の実施（共催）
- ・元気村かみくげが主催する試掘調査への参画（協力）

（恐竜タスクフォース 池田忠広・太田英利・半田久美子・廣瀬孝太郎・久保田克博・生野賢司・田中公教・加藤茂弘）

■ 展示更新タスクフォース 令和4年度の主な事業

（1）ひとはく将来ビジョン2032の発行

ひとはくが今後目指すべき将来像とその実現のために必要な取り組みの内容をまとめた「「ひとはく将来ビジョン2032—みんなと共に、地域と共に—」を2023年3月に発行した。この新ビジョンは、これまでに策定してきた「人と自然の博物館の新展開」「新たな兵庫県立人と自然の博物館基本構想」「新たな人と自然の博物館基本計画」「ひとはく将来ビジョン」を土台とし、その上に新たな検討結果を積み重ねて理念・活動方針の再規定を行ったものであり、10年後の2032年度を目標年度としている。策定にあたり、外部有識者7名からなるひとはく将来ビジョン検討委員会を設置し、同委員会を2022年8月に2回開催した。また、新ビジョンの概要をわかりやすく紹介するためのパンフレット「もっと！ひとはく2032」を開館30周年記念に合わせ2022年10月に発行した。

（2）えんがわミュージアム事業の実施

令和元年度に作成したインドアパーク・ミュージアム構想に係るソフト先行事業として、「えんがわミュージアム」を実施した。本事業は、公園緑地と隣接する博物館の縁側の空間（1階ピロティ、ホワイエ周辺）に可変式の滞留空間を試行的・定期的に整備し、採集・観察道具の貸し出しや、緑地の自然・博物館資料を活用した参加型・体験型プログラム等を実施するもので、幅広い世代への自然体験や環境学習機会の提供、身近な自然や博物館利用に対する興味関心の喚起、博物館の体験型学習拠点および遊び・くつろぎ・交流の場としての機能拡充と発信などを目的としている。

（展示更新タスクフォース 布野隆之・石田弘明・黒田有寿茂・頼末武史・久保田克博・衛藤彬史・山田量崇）

■ Kidsタスクフォース 令和4年度の主な事業

（1）ふるさと兵庫子ども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）の実施

ひとはくでは兵庫県環境部環境政策課（現 環境部）と連携し、県内の全幼稚園・保育所・認定こども園等（約1,500園）を対象に乳幼児期のこどもたちへの環境体験機会の創出と環境体験が継続的に実施できる仕組みの構築を目指し「ふるさと兵庫子ども環境体験推進事業（ひょうごエコロコプロジェクト）」を令和元年度より開始した。この事業の中核を担う専門人材として、「こども環境体験コーディネーター」（2名）及び「こども環境体験スタッフ」（1名）の職種を新たに設置し、令和4年度は以下の事業を展開した。

1-1. 環境体験事業の実施

- ・しぜんたいけん（訪問タイプのプログラム）実施園数：107 園
 研究者やこども環境体験コーディネーター、こども環境体験スタッフが園に出かけて、園庭や近隣公園等の動植物を用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。
- ・たいけんデビュー（訪問タイプのプログラム）実施園数：62 園
 ひとはくスタッフのほか兵庫県環境部の職員が園に出かけて、ダンゴムシさがしなど、環境体験の導入的なプログラムをこどもたちへ提供。
- ・しぜんえんそく（遠足タイプのプログラム） 実施園数：46 園
 県立公園等で園の遠足を受け入れ、ひとはくスタッフや各施設のスタッフが虫やどんぐりなどを用いた自然体験プログラムをこどもたちへ提供。
- ・親子参加型のプログラム 実施回数：52 回
 親子で参加する自然体験機会を提供。
- ・エコロコ BOX の貸し出し園数：31 園
 拡大装置等の自然体験を支援するセット「エコロコ BOX」を貸出。

1-2. 人材育成事業の実施

- ・エコスタディ☆フェスの開催 参加園数：31 園
 現役の幼稚園教諭や保育士等へ園での自然体験実践につなげるための仲間づくりとノウハウを学ぶ機会を提供（ひとはくにて開催）。
- ・園の先生向けの研修 参加園数：130 園
 園の先生へ園庭や近隣公園の自然を活用するノウハウなどを提供。

1-3. コンテンツ開発

- ・自園プログラムの開発
 各園での取り組みを促進するためのコンテンツ「エコロコいきものかるた・いきものあわせ」の制作・配布、「むしみつけたよ～園児たちのむし図鑑～」改訂版の制作・配信。
- ・ホームページやメールリングリストで配信
 ネットワークを拡げるため、専用ウェブサイトや園の先生の会員メールリングリスト等で配信。

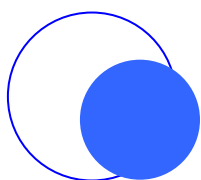
(2) Kids キャラバンの実施

移動博物館車「ゆめはく」（2tトラック）を活用したキャラバン事業（アウトリーチ活動）として、幼稚園や保育所、認定こども園などを訪問した。昆虫標本の展示や、恐竜の頭骨レプリカと化石・鉱物標本の観察、拡大装置での生きもの等の観察、ひょうごの昆虫や丹波の恐竜化石のキューブパズルの4つのプログラムを行った。今年度は40園から申し込みがあり、このうち21園で実施した。

(3) Kids サンデーの実施

月の第1日曜日を「Kids サンデー」と呼び、小さな子どもとその家族向けのプログラムを実施している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月の「ひとはく30祭（開館30周年記念事業）」に合わせて10月29日と30日だけプログラムを実施し他の月は実施を見送った。

(Kids タスクフォース 半田久美子・小舘誓治・八木 剛・大平和弘・辰村 絢・河田麻美・杉浦千加子)



プロジェクト

ひとはくでは、2002年度の「新展開」以後、館長辞令による館独自の職制を導入し、研究員が事業部やタスクフォースを兼務する体制で事業を推進してきました。更に2012年度に「ひとはく将来ビジョン」をとりまとめ、組織体制・マネジメントのあり方の一つとして、「適時チームビルディングを行う柔軟な組織体制」を掲げました。変化の激しい社会情勢に柔軟に対応するため、課題やミッションに合わせ、チームづくりや事業等のリストラクチャリングをフレキシブルに行うことができる仕組みが必要であり、2014年度より、「プロジェクト制」の導入を開始しました。これは、研究員になじみのある研究プロジェクトの方法を、事業等にも適用したもので、各研究員が自由に新規に立ち上げることができます。構成員は代表者、分担者、協力者で、ひとはくの職員に限らず、外部と協力して行うことができます。また外部資金の導入も積極的に進めています。ひとはくの活動を網羅する内容になっており、国際交流事業やシンクタンク、生涯学習プログラム、収蔵資料、学術研究など多岐にわたっています。ひとはくでは独自に中期目標を設定し定量的な指標を用いて評価を行っていますが、プロジェクトでは、定量的に把握できない質的なパフォーマンスを表しています。2022年度は、下記97件のプロジェクトを展開しています。

■ 2022年度のプロジェクト(計97件)

頌栄短期大学標本の登録・整理	頌栄短期大学標本は25万点の貴重な大コレクションである。新収蔵庫建設にあわせて博物館の植物コレクションと一体化し閲覧の便宜を図るとともに、標本デジタル化を推進する。21年度は標本引越し作業を実施する。
キッピー山プロジェクト	三田市有馬富士自然学習センタープログラム運営事業の実施。ひとはくの機能拡張、新規事業開発に資する試行を含む。
鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた検討支援	鳴門海峡の渦潮の世界自然遺産登録に向けた学術的支援、および枠組みづくり、体制づくり等の支援を行う。
うずしお科学館運営支援	リニューアルオープンした南あわじ市大鳴門協記念館内のうずしお科学館の運営計画策定や運営体制、ネットワークづくり等の支援を行う。
但馬牧場公園連携プロジェクト運営支援	リニューアルオープンした但馬牛博物館の博物館活動、運営・マネジメント計画・体制づくりに関する支援を行う。
ひょうごエコロコプロジェクトの推進	乳幼児期のこどもたちへ環境学習の支援を行う「ふるさと兵庫こども環境体験推進事業(ひょうごエコロコプロジェクト)」を推進する。県環境政策課、県内の幼稚園・保育所・認定子ども園、県立公園、関連大学等と連携しながら、園庭や公園等での自然体験機会の提供や、プログラム開発、人材育成、ネットワークづくりなどを県全域で展開する。
ひとはく雨庭プロジェクト	コレクションナリウムの雨庭におけるセミナーや地域住民との協働による庭づくりを進める。
博物館の資源を活用したフラワータウン再生	兵庫県および三田市のフラワータウン再生施策に対して、館事業および施策アドバイザーとして関わり、キックオフプロジェクトを中心に推進を支援する。
加東市との連携と環境学習事業への支援	協力協定に基づく環境学習事業への支援、とくに「加東市ノーベル大賞」の審査と講評を行う。その他、学校教育との連携による環境学習プログラム開発などを行う。
ひとはくのハチ類コレクション整備推進プロジェクト	ひとはくのハチ類コレクションはタイプ標本を含む日本・アジア各地の標本からなり、当館を特徴づけるコレクションになっている。更に、2015年度には4万点に及ぶ日本産カリバチ・アナバチ全種オス・メス標本の寄贈を受けた(羽田コレクション)。本プロジェクトでは、当館のハチ類コレクションの整備と更なる充実・活用を推進する。また、公開可能な標本データについては、当館HPやGBIF等で公開していく。
Kids サンデープロジェクト	子ども向けあるいは家族向けのイベント等を行う「Kids サンデー」を実施する。また児童館、幼稚園・保育所、高齢者大学等と連携しながらプログラム開発を行う。
ミュージアムキッズ！プロジェクト	こどもひかりプロジェクトの支援と連携を実施する。全国のさまざまな分野のミュージアムとともに、幼児～低学年向けプログラムの開発提供、ユーススタッフ(大学生)の共同育成、ジャーナルの刊行等を行う。

地域の自然たんけん隊 in 但馬	兵庫県の旧市町村のうち、最近 5 年間でキャラバン事業を展開できていない地域に焦点をあて、ひとはくの魅力を知らせるとともに、生物、自然や科学への興味関心をはぐくむとともに、将来的な担い手育成につなげる。
ひとはく in ハイスクール	ひとはく開館 30 周年の記念事業として、高等学校を軸としたキャラバン事業を展開する。とくに若手研究員を中心に実施することで OJT を兼ねる。
Kids キャラバン	幼稚園・保育所への「Kids キャラバン」をはじめ、文教施設や地域団体からの要望に応じ、展示や体験型プログラムのパッケージを、移動博物館車「ゆめはく」を活用して、博物館への来館が困難な地域へ届ける活動のコーディネートを行う。
共生のひろば	「創造と共生の舞台・兵庫で参画する皆さんが共演する生涯学習院」の推進のため、16 年間継続してきた担い手育成の中核事業であり、年間でもっとも多くの入館者数、参加者数を記録。ひとはく地域研究員や連携活動グループをはじめ、地域活動を行っている方々が、お互いの活動を知り、活動の質をあげ、新たな展開のヒントを得る場としての「交流の場づくり」を行う。昨年はオンラインで開催成功を収めたが、その経験を活かした開催する。
兵庫県下市町の生物多様性地域戦略の策定・推進を目的とした行政支援	年 1 回程度の市町の生物多様性施策担当者を対象とした情報交換会を開催し、生物多様性施策担当者が博物館や近隣市町への相談や事例把握をしやすい環境を整え、そのことによって、地域戦略策定・推進に貢献する。また生物多様性地域戦略を策定した市町に対して委員等を派遣して、戦略推進に対するアドバイスをを行う。またこれから戦略を策定しようとする市町の相談を積極的に行うとともに、戦略の策定の必要性を働きかける。
えんがわミュージアム	博物館の体験型学習拠点および遊びの場、くつろぎの場、交流の場としての機能拡充と発信を主な目的として、公園緑地(深田公園)と隣接する博物館の縁側の空間(1 階ピロティ、ホワイエ周辺)に、誰でも利用可能な可変式の滞留空間を試行的・定期的に整備し、そこで採集・観察道具の貸し出しや、緑地の自然・博物館資料を活用した参加型・体験型プログラム等を実施する。
ジーンバンク事業の推進	生物多様性保全を目的として、絶滅危惧植物等の危険回避、緊急避難、系統保存、増殖および種子保存を行う。また、生物多様性に配慮した植生・生態系の創出を目的として、地域性種苗を用いた公共用地・企業用地等における緑地形成支援を行う。また、これらジーンバンク事業の実現に必要な調査・研究、技術開発を進めるほか、ジーンファーム見学会等の実施を通じ環境学習・生涯学習支援を行う。
博物館情報システムの新たな機能に関する整備と調整	情報システム更新によって整備されたシステムの円滑な運用を図るために、館内各課との調整を図り、より扱いやすいシステムの整備開発、保守に努める。主には、HP の改訂、セミナー受講者システム、館内展示端末(4F)、館報データ等の集計、名簿管理について、従来ルールを引き継ぐ形で簡便化と自動化を図る。館員からの各種質問対応、ホームページの構成、入館者やセミナー受講者等の既存情報を活用したマーケティング分析資料の作成を行う。また、次期システム更新時の効果的な整備手法の開発を検討する。
ひとはくアカデミック・ステイ in 但馬	兵庫県の自然を研究者とともに学び体験出来る宿泊型学習プログラムを実施し、子どもたちが身の回りの環境に関心を持ち、自然科学への探究心をはぐくむとともに、兵庫県へのふるさと意識の醸成につなげる。
堆積物を用いた沿岸域の基礎生産者の時系列変化とその要因の解明	水域生態系の動態とそれを駆動するシステムを堆積物から評価する方法を確立する。瀬戸内海、東京湾、中海において底質表層を採取し、有殻生物の遺骸(珪藻、有孔虫、貝形虫、バリノモルフ)、有機分子、メタゲノムの時空間分布を明らかにする。モニタリングデータや周辺の歴史的背景を整理し、各環境要素の因果関係を明らかにする。
有殻微細生物の高分解能イメージングに関する研究	珪酸質や炭酸カルシウム質の微小な生物殻は、サブミクロンオーダーの複雑な微細構造を有する。これらは細胞内外の物質輸送や細胞質の形状に関わる重要な構造であるため、三次元ナノ解析による形態情報を採取する必要がある。本研究では、代表的な微化石である珪藻や有孔虫、放射虫などのマイクロ/ナノ-CT 撮影を行い、得られた 3D イメージに対する定量的な検討を行うことで、生物進化、細胞機能、環境影響評価に関する理解を深める。
堆積物に保存された植物由来の有機分子に関する研究	堆積物に保存された植物種と代謝物の対応関係を特定することで、植物の系統進化に関わる重要な情報が得られる。保存の良い陸上植物の組織や炭質物の化石を豊富に含む古第三系の神戸層群の化石含有層準を対象とし、特徴的な有機分子の抽出を試みる。
水域生態系における物質循環に関する研究	微細藻類の一種である珪藻は、水域における主要な基礎生産者である。しかし、淡水域においては、定量的な摂食-補足関係について不明な点が多く、物質循環への寄与を評価するための情報が不足している。本研究では、魚類の食性に関わる珪藻の群集構造とその挙動(摂食消化、排出過程)を調べる。

バルト海における珪藻植生と人為改変の影響	バルト海は広大な汽水域であり、ヨーロッパの研究者達により膨大な珪藻の分類・生態情報が蓄積されてきた。バルト海南西部で近過去の珪藻群集の変化を明らかにし、人為改変の影響を評価するとともに、日本の都市沿岸における群集変化を評価するための具体的な分類・生態情報を得る。
体験型学習フェスタ	県内の各地域や地域に集う子供たちの自然科学や故郷への関心向上を目的に、恐竜・化石等をテーマとした学習と体験を組み合わせた集約型ワークショップを開催する。
地学系収蔵庫の資料整理の推進	地学系収蔵庫に保管されている資料の整理を推進し、コレクションの管理と利活用促進を行う。
琉球列島を中心とした熱帯～温帯アジアの爬虫・両生類相の多様性と自然史に関する研究	琉球列島を中心に熱帯アジアから日本本土にかけての爬虫・両生類相の多様性・固有性・自然史をテーマに、その現状の把握、そして背景となる地史・環境履歴の解明を目指す。
ブータンの爬虫・両生類の多様性に関する調査研究	長きにわたる鎖国政策の影響で知見の少ないブータン王国の爬虫・両生類そうに関する調査研究を進める。
生物系標本庫(植物)の資料整理とデータの公開	生物系収蔵庫における植物標本の管理と利活用の促進をはかり、未収集コレクションの取得と整備につとめる。これらの資料をデータベース化して、公開可能な標本データについては、当館 HP や GBIF 等で公開していく。
シソ科アキギリ属の送粉者調査と繁殖干渉	日本産アキギリ属を例に、近縁種間でどの程度の繁殖干渉が起こっているかどうかを明らかにする。合わせて遺伝解析も実施する。
兵庫県産植物を中心とした植物分類学的研究	博物館活動の基盤となる資料収集の強化、及び県産の絶滅危惧種、希少種を対象とした繁殖様式、フェノロジー、系統解析等、保全に資する基礎生物学的研究を実施する。
植物標本デジタル化の促進	植物標本のデータ入力作業の省力化効率化を目指し、標本画像の取り込み、画像からラベルデータの自動抽出および DB 入力の自動化を目指す。今年度は DB 入力ボランティアを募り、OCR 読み取りシステムのブラッシュアップを図る。
餌資源の分割によるハエトリグモ類の多様性創出と維持	ハエトリグモ類に見られる食性の多様性が、種の多様性に及ぼす影響を、安定同位体分析や系統解析によって明らかにする。
半翅目昆虫の交尾器形態の相同性の検討ならびに外部形態情報の蓄積	半翅系昆虫の系統関係の諸問題を、従来をはるかに上回る精度と量の形態データによって検証し、半翅系昆虫の多様性をもたらした進化的背景を明らかにする。
兵庫県および周辺地域の昆虫類のインベントリと収蔵資料の充実	兵庫県内の未調査地域や未研究グループを重点的に、県産昆虫相の解明に向けたインベントリ調査を行い、当館の参照標本の充実を目指す。
外来昆虫の分布拡大に関する調査	見過ごされがちな微小昆虫類を対象に、地域の外来昆虫に関する各種情報を蓄積し、在来昆虫へのインパクトを検討するための基礎資料とする。
貝殻を利用する矮小シクリッドの平行進化および側所的種分化の機構解明	タンガニイカ湖における潜水調査・資料採集、及び日本での分子解析を行うことにより、シクリッドの <i>Telmatochromis temporalis</i> 矮小型が並行して側所的種分化した遺伝機構を解明する。
環境勾配に沿った外来フジツボ類の温度耐性と適応遺伝子変異に関する研究	日本沿岸域の外来フジツボ類を対象に、緯度・潮位勾配に沿った温度耐性及び遺伝的な勾配が存在するのかどうかを検証する。
海産付着動物の着底場所選択性に関する遺伝的基盤の解明	フジツボやサンゴなどの海産付着生物を対象として、室内実験と遺伝子解析を行い、幼生の着底場所選択性に関する分子基盤の解明を行う。
御影高校における博物館活用型の学習プログラム構築	県立御影高校の環境科学部および課題研究やグループ学習の授業を通じて、六甲山のキノコに関する基礎研究を行い、その成果をもとに当館での展示会やキャラバン(御影クラッセ、森林植物園等)を開催する。今年度からは、担当教員が異動により交代したため、新たな実施形態等を模索する。
自然史標本の汎用化と収蔵技法の標準化と体系構築	自然史博物館の標本管理と保存、活用の技法は、1990 年以降、あるいはもっと以前の段階から殆ど進展していない。データ整備や収納、デジタル技術、薬品処理や保存科学の方法論は大きく進展しているが、これらの知見が反映されていない。本プロジェクトでは、最新の科学的な知見を取り入れて、新たな活用や効率的な整備方法について、現代様式での収蔵技法の体系を、全国の博物館ネットワークを通じて構築する。
館内の非効率で壊れた場所を地味にメンテするプロジェクト	館内には壊れたままで運営に致命的な影響を及ぼす施設修繕や、省エネ対策が必要な機器、不親切なサイン、ユニバーサル対応の不備、未清掃で危険な床面や割れた箇所、雨漏りを引き起こす屋上緑化施設などに新技術を通じて対応する。特に収蔵庫棟の雨漏りや照明機器の省エネ化、看板サインの不整合について、関係部署と協議して適宜対応する。日本中の博物館に維持経費削減手法を発信する。

「ドリームスタジオ・フェスタ」プロジェクト	NPO 法人人と自然の会が主催する「ドリームスタジオ・スペシャル」の開催を支援する。本事業は、集客を目的とする大型イベントではない。自然環境や標本を活用した参加型プログラムを提供することにより、来館者の好奇心を育むと共に、博物館に対する満足度の向上を図ることを目的とする。開催時間は2時間。来館者は500人以上。来館者全員が1つ以上のプログラムに参加できるよう準備を進める。
但馬イヌワシ・エイド・プロジェクト	但馬地域において絶滅危惧種であるイヌワシを保全すると共に、本種を頂点とする健全な生態系ピラミッドを、地域住民、NPO、行政等と連携して整備する。
花の寿命をめぐる花粉とめしべの相互作用	花の寿命をめぐる受粉した花粉とめしべの間に利害対立があるという作業仮説のもと、花寿命を決める機構として、受粉した花粉の形質の影響を明らかにする。
ひとはく・有馬富士公園を活かした地域づくり演習プロジェクト	兵庫県立大学の副専攻地域創生人材教育プログラムにおける地域プロジェクト実践論・演習である。約60名の学生が「ひとはく&有馬富士公園を活用した地域活性化」をテーマとして、地域の現状や課題を調査、プロジェクトを提案・実施し、その成果を発表する一連のフィールドワークで、ひとはくを中心に実施する。
ミツカンよかわピオトープ倶楽部支援	ミツカンよかわピオトープ倶楽部によるピオトープを活用した事業支援(ピオトープに関わる啓発・人づくり等)を行う。
尼崎21世紀の森構想の推進支援	兵庫県の重要施策の1つである尼崎21世紀の森構想の推進に向けて、新たな10年のキックオフから人材養成、制度設計に至る推進支援を包括的に行う。
三田市地域計画策定支援	三田市内のまちづくり協議会にて地域計画を策定するための、行政支援及び地域団体支援を行う。
赤穂海浜公園の魅力アップ支援	県政課題である県立赤穂海浜公園の魅力アップに向けて、助言や事業協力を行う。
三田市野外焼却を通じた農住共存の検討	都市と農村が隣接する三田市での野外焼却を通じて、居住環境としての農業・農地のあり方を検討する。
平谷川を楽しもう	ウッドイタウンの中心を流れる平谷川の価値と魅力の発掘およびその活用のための方策を、地域住民とのフィールドワークを基礎として検討する。
神戸市・福田川流域における市民活動の支援	神戸市の須磨区から垂水区を流れる二級河川・福田川の流域において、福田川クリーンクラブやれいんぼうキッズといった市民団体の環境保全活動、環境教育活動を支援する。
神戸市・高塚山における市民活動の支援	神戸市西区に位置する高塚山において、市民団体「高塚山を愛する会」および有志の地域住民が展開している高塚山内でのアクティビティおよび環境教育活動を、プロジェクトマネジメントの観点から支援する。
バンドー神戸青少年科学館におけるピオトープの利活用	バンドー神戸青少年科学館玄関前に設置されたピオトープの環境管理についてのアドバイス、およびピオトープを活用した来館者向けのセミナーを実施する。
宮崎海岸浸食対策事業における市民・行政・専門家間の合意形成マネジメント	国土交通省宮崎河川国道事務所が直轄事業として進めている宮崎海岸浸食対策事業において、市民連携コーディネータとして、市民・行政・専門家間の合意形成マネジメントを行う。具体的には、事業に関する意見交換を行う「市民談義所」のファシリテーション、および効果検証委員会などの専門家会議における市民意見の報告を担う。
神戸市・多井畑西地区の環境保全に向けた合意形成マネジメント	神戸市垂水区・須磨区にまたがる多井畑西地区は、貴重な里山環境が残存した市街化区域である。神戸市が都市型の里山としての保全・活用を目指すこのエリアのビジョン策定に向けた合意形成マネジメントを担う。
神戸市・塩屋地区のまちづくり	神戸市垂水区の塩屋地区では住民主体による様々なまちづくり活動が展開している。塩屋まちづくり推進会のメンバーおよび各々のまちづくり活動のアドバイザーとして支援を行う。
明石市立図書館における妖怪と安全の研究室	あかし市民図書館および明石市立西部図書館では、地域の子どもたちに向けた「研究室」プロジェクトを展開している。「妖怪と安全」をテーマに、地域の安全マップを作成する教室を展開する。
有馬富士公園 人材育成	有馬富士公園をフィールドにして地域づくり支援や人材育成プログラムを実施する。
パークマネジメントの社会実装に向けた行政支援	有馬富士公園でのマネジメントの運用、企画等の支援、芦屋市「宮塚公園」、吹田市「千里南公園」でのパークマネジメント組織立ち上げ支援など具体的取り組みや、公園・パークマネジメント等に関する連続セミナーによる行政、民間との情報交換の場の運営を通じて、様々な規模でのパークマネジメントの社会実装に向けた行政の取り組みを支援する。
「そとはく」による、持続性のあるニュータウン再生への取り組み	博物館周辺の屋外空間を活用する「そとはく」での活動をきっかけに周辺事業者との事業連携を図り、ニュータウン再生のきっかけとなる取り組みを行う。
古写真を中心とした環境系資料活用による地域支援	古写真による地域の原風景の抽出や地域マネジメントへの活用方策、収蔵資料展での展示公開やセミナー等への活用方策検討のほか、館内外における実践を通じ、活用プログラムの開発を行う。

近畿・中国・四国のランドスケープ遺産インベントリーの作成	ランドスケープ遺産(次世代に残したい風景や優れた造園空間)の保全と継承を図ることを目的に、日本造園学会連携のもと、それらの記録収集・登録作業を進める。また、兵庫県版レッドリストの自然景観として公表するなど、県下の景観の学術的価値の顕在化に寄与するとともに、館の資料収集・公開活用にも大いに貢献する。
養父市における中山間農業特区事業の効果検証	国家戦略特区の指定を受け、規制緩和をはじめとした企業による農業参入を促す養父市における事業評価を通じて、人口減少下における持続可能な農用地資源のマネジメントのあり方を検討し、提言する。
地域主体交通の立ち上げ、運営支援	日常的な移動が主に自家用車に依存する地域において、住民が主体となった送迎サービスの持続可能な運営手法を検討し、実装を支援する。
6次化を通じた在来種保全	在来種の青大豆である八鹿浅黄(ようかあさぎ)の加工・販売、体験提供を通じて、また移住者への職と住の一体的な支援を目指す中で、これからの都市農村共生のあり方を検討する。
伝統的農業システムの動的保全に向けた進化メカニズムに関する日中比較分析	日本と中国の世界農業遺産地域(国レベルの農業遺産も含む)を対象に、生物学の進化メカニズムを援用しながら、内外の環境が変化する中で、伝統的農業システムの何が残り、何が変わったかを、農法、知識継承、地域資源管理等の点から複眼的に明らかにする。そして、導き出した進化メカニズムをもとに望ましい動的保全のあり方を提示する。
ローカル・コモنزの持続的運営に向けたコミュニティ・ガバナンスの形成	異なる複数の地域資源を対象に、資源運営の補完的役割を果たす存在として期待されるコミュニティの形成過程における課題や要点を明らかにする。結果をふまえ、縮減社会において持続的な資源運営を可能にするコミュニティ・ガバナンスのあり方を考察する。
北摂里山博物館構想の支援	「北摂里山博物館構想」の推進に向けた各種取り組みを支援し、北摂地域の生物多様性保全と地域振興を図る。具体的には、植物・植生の保全・管理手法の開発・普及、自治体への政策提言、自治体や市民団体、企業などの活動支援、児童生徒や地域住民の環境学習支援、生物多様性保全の担い手の育成などを行う。
三田市皿池湿原の保全	三田市の皿池湿原は兵庫県版レッドデータブックのAランクに指定されている。しかし、この湿原では様々な問題(遷移の進行に伴うヌマガヤ群落や木本群落の拡大、周辺部に広がる放置里山林の照葉樹林化など)が発生しており、今後の生物多様性の減少が懸念されている。三田市と連携してこの湿原の保全を図る。
たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全	たつの市鶏籠山の照葉樹林は兵庫県版レッドデータブックのBランクに指定されている。しかし、鶏籠山はシカの生息密度が非常に高く、シカの食害による照葉樹林の衰退が大きな問題となっている。林野庁と連携してこの樹林の保全を図る。
兵庫県における未確認植物群落の実態把握	兵庫県にはまだ調査がほとんど行われていない植物群落が数多く存在する。また、里山の管理放棄やシカの増加などに伴って、過去に例のない新たな群落が各地で見られるようになってきた。このような未確認群落の実態を把握するための調査を実施し、その成果を随時論文にまとめて公表する。
乾燥種子標本の収集・活用	開館当初から収集・保管してきた乾燥種子標本を今後も適切に保管すると共に、展示やセミナー、キャラバン事業などでの標本の活用を図る。また、収集活動の継続や寄贈の促進、他館との標本交換などを行うことで標本のさらなる充実化を図る。
棚倉町里山再生・活用プロジェクト	福島県棚倉町で里山の保全・活用に向けた各種の取り組みを行う。
都市公園と里山林の植物相の保全と活用	都市公園と里山林の植物相を明らかにし、貴重種の保全および自然観察に有用な植物の活用やガイドの作成を行う。
丹波地域の貴重植物の探索と保全活動	丹波地域の貴重種を探索し、保護が必要な場合は保全策を講じ、一般公開などにより地域の魅力を村おこしにつなげる。
植生資料データベースの構築・公開	神戸大学発達科学部植生研究室(武田義明教授)や杉田氏より寄贈された1960年代以降に調査された国内各地の植生調査資料をデジタル化、データベース化し過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上での公開も検討し、広く研究者、専門家が利用できるデータベースを目指す。
植物・植生映像資料データベースの充実化と有効活用	開館当初より収集し、データベース化している植物・植生映像資料を適正に保管するとともに、映像資料の寄贈の受入や館員による収集映像の追加によりデータベースを充実化し、過去の植生の変遷や地域の植生の特徴を理解するための基礎資料として活用する。WEB上での公開も検討し研究者、専門家だけでなく広く県民も利用できるデータベースを目指す。
ひとはく生物多様性の森を活用した市民活動・環境学習支援	深田公園の当館管理区域に位置する残存林および人工林で現在行っている里山管理および施設管理を継続し、兵庫方式の里山管理の見本林として整備する。また里山の代表的な植物を観察できる場所に整備する。

	安全管理上の問題もあるため、完全一般公開とはせず、里山活動を行う市民団体や行政、企業向けのセミナーや学校団体等の環境体験学習等で活用する。
三田市南公園 まちなか里山保全プロジェクトの支援	三田市が策定した南公園の里山公園管理計画である「まちなか里山基本方針」の実現を支援するための、人材育成プログラムに対する講師派遣やコンテンツ提供、育成された人材で結成される活動団体への支援を行う。また整備された南公園を活用して、ひとはく独自の環境学習プログラムの実施(主に特注セミナー)を検討する。
生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用した生物多様性の普及・啓発、研究開発	平成23年度より実施している生物多様性協働フォーラムの枠組みを活用して、生物多様性の主流化に資する研究会開発を行うとともに、研究成果の公表、普及啓発活動を展開する。
山陰海岸における海浜植物・海浜植生の保全推進	山陰海岸に生育する海浜植物の保全に向け、野外調査、発芽試験、栽培試験等を行う。データは学会・論文での発表のほかセミナーや展示で活用する。
播磨灘沿岸における塩湿地植物・塩湿地植生の保全推進	播磨灘沿岸に生育する塩湿地植物の保全に向け、野外調査、発芽試験、栽培試験等を行う。データは学会・論文での発表のほかセミナーや展示で活用する。
名勝慶野松原における海浜植物・林床植生の保全推進	慶野松原(南あわじ市)の生物多様性保全に向け海浜植物のモニタリングや系統保存、域外保全個体群の遺伝的多様性の評価等を行う。
兵庫県における重要植物群落の現状把握と保全推進	兵庫県内の重要植物群落の現状を把握し、環境施策や森林整備事業の企画立案に必要な基礎資料の充実を図る。収集した植生写真や植生調査資料はセミナーや展示で活用する。
国内希少野生動物植物種の保護増殖事業支援及びゲノム情報の把握	国内希少野生動物植物種のうち、草原に生息するウスイロヒョウモンモドキ及びフサヒゲリカミキリの保護増殖事業の支援を行う。更にその2種に加え、国内希少野生動物植物種のうち昆虫類のゲノム情報を把握及び遺伝解析から近交弱勢の影響を評価し、長期的な個体群の維持を目指す。
里地里山に生息する在来種における遺伝的攪乱の現状把握	里地里山に生息する在来種のうち植物や昆虫に焦点を当て、集団遺伝解析によって遺伝的攪乱進行状況を把握する。
ジーンファームにおける生育域外保全植物の遺伝的多様性評価	ジーンファームで生育域外保全を実施している植物について、野生集団と比較してどの程度遺伝的多様性を保持しているかを解明する。
絶滅危惧種の植物や昆虫における遺伝情報の蓄積	絶滅危惧種や国内野生動物植物に指定されている昆虫や植物について、生息域内や域外における保全活動を目的として遺伝情報を蓄積する。
絶滅危惧植物の遺伝資源サンプル収集	兵庫県に生育する絶滅危惧植物を中心に、遺伝解析用のサンプルを収集する。将来世代がこうした遺伝解析用サンプルを解析できるように、博物館における恒久的な収蔵を目指す。
「深田公園植物情報」展示等による演習プログラムの試行	4階ひとはくサロンから見える範囲での植物を観察する場所やポイントなどの情報を1~2ヶ月ごとに「深田公園植物情報」として内容を更新する(専用展示台によって、ひとはくサロンで展示)。また、深田公園を使って植物を対象とした演習プログラムを試行する。
年配者と地域の子どもをつなぐプロジェクト	年配者と一緒に地域の小学校や児童館などへ行って、自然や環境、生きものについてのプログラムを実施しながら、年配者と地域の子どもたちがコミュニケーションする仕組みを検討する。
地学系資料データベースの整備	地学系収蔵資料の適切かつ効率的な管理・活用に役立てるべく、館内用「資料データベースシステム」および公開用「ひとはく収蔵品検索システム」の改善に取り組む。2022年度は、データの入力・更新を積極的に進めるとともに、次期システム更新に向けて現行システムが抱える課題の洗い出しを行う。
東・東南アジア地域のツユクサ科の分類学的再検討	日本・タイおよび周辺地域のツユクサ科植物約13属(未記載種多数)を採集・形態調査・DNA解析し、分類学的再検討、系統・形態進化の推定を行う。
複雑な染色体の多様性を持つ種複合体ツユクサの種生物学的実態の解明	日本全国に分布する種であるツユクサを採集・形態調査・DNA解析し、分類学的再検討を行う。